

令和元年度 厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業)

「がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA 世代がん患者に対する
妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究—がん医療の充実を志向し

(19EA1015) 」

研究①「本邦における小児・AYA 世代がん患者の生殖機能に関するがん・生殖医療連携体制
の拡充と機能維持に向けた研究」

『地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会』

【日時】 令和2年1月24日(金) 11:50-16:00

【場所】 TKP 新橋カンファレンスセンター14階 ホール 14G
東京都千代田区内幸町 1-3-1 幸ビルディング

【内容】 がん対策推進基本計画(第3期)の「小児、AYA 世代がん患者に対する生殖機能に
関する情報提供および意思決定支援体制構築」に向けた、各自治体における「が
ん・生殖医療ネットワーク」立ち上げと、今後のロードマップの話し合い

【参加予定者】

- 全国 24 箇所のがん・生殖医療ネットワーク未整備地域におけるネットワーク構築に関してご指
導、ご尽力いただける、①各行政のがん対策関連部局の行政官、②がん診療連携拠点病院にお
いてがん診療の指導的立場の先生または実務医師、③産婦人科診療の指導的立場の医師(可能
であれば日本産科婦人科学会医学的適応による未受精卵子など凍結登録施設あるいは ART 登録
施設)または実務担当医師
- 厚生労働省健康局がん・疾病対策課 清水裕介先生
厚生労働省健康局がん・疾病対策課 小田尚生様
- 研究代表:鈴木直(聖マリアンナ医科大学産婦人科学)
- 研究分担者:高井泰先生(埼玉医科大学総合医療センター産婦人科)
古井辰郎先生(岐阜大学医学系研究科産科婦人科学)
- 研究協力者:加藤雅志先生(国立がん研究センターがん対策情報センター)
木村文則先生(滋賀医科大学産科学婦人科学)
根来宏光先生(筑波大学医学医療系泌尿器外科:西山博之先生の代理)
竹中基記先生(岐阜大学医学部産婦人科学)
高江正道(聖マリアンナ医科大学産婦人科学)
川原泰(聖マリアンナ医科大学産婦人科学)

【議事次第】

- ◆ 11:50-12:00 挨拶：清水裕介先生（厚生労働省健康局 がん・疾病対策課医薬・生活衛生局 総務課 医薬品副作用被害対策室併任がん検診対策専門官）
- ◆ 12:00-12:10 挨拶：鈴木直、高井泰先生、古井辰郎先生
- ◆ 12:10-12:25 本厚労科研班研究の取り組みならびにミッションに関して：鈴木直
- 12:25-14:05 第1部：がん・生殖医療ネットワークの現状
- ◆ 12:25-12:45 岐阜県の取り組み：古井辰郎先生
- ◆ 12:45-13:05 埼玉県の取り組み：高井泰先生
- ◆ 13:05-13:25 滋賀県の取り組み：木村文則先生
- ◆ 13:25-13:45 国立がんセンターの取り組み（相談支援センター）：加藤雅志先生
- ◆ 13:45-14:05 質疑応答
- ◆ 14:05-14:15 休憩
- 14:15-16:00 第2部：小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療ネットワーク構築にむけたワークショップ*
- ◆ 14:15-15:15 ワークショップ（各自治体に分かれて討議）
- ◆ 15:15-16:00 総合討論

令和元年度 厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業)

「がん・生殖医療連携ネットワークの全国展開と小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存の診療体制の均てん化にむけた臨床研究—がん医療の充実を志向して (19EA1015) 」

研究①「本邦における小児・AYA 世代がん患者の生殖機能に関するがん・生殖医療連携体制の拡充と機能維持に向けた研究」

『地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会』 議事録

【日時】 令和2年1月24日(金) 11:50-16:00

【場所】 TKP 新橋カンファレンスセンター14階 ホール14G

東京都千代田区内幸町1-3-1 幸ビルディング

【内容】 がん対策推進基本計画(第3期)の「小児、AYA 世代がん患者に対する生殖機能に関する情報提供および意思決定支援体制構築」に向けた、各自治体における「がん・生殖医療ネットワーク」立ち上げと、今後のロードマップの話し合い

【出席者】 (敬称略)

- 厚生労働省健康局がん・疾病対策課 清水裕介
厚生労働省健康局がん・疾病対策課 小田尚生
- 研究代表: 鈴木直(聖マリアンナ医科大学産婦人科学)
- 研究分担者: 高井泰(埼玉医科大学総合医療センター産婦人科)
古井辰郎(岐阜大学医学系研究科産科婦人科学)
- 研究協力者: 加藤雅志(国立がん研究センターがん対策情報センター)
木村文則(滋賀医科大学産科学婦人科学)
根来宏光(筑波大学医学医療系腎泌尿器外科: 西山博之の代理)
竹中基記(岐阜大学医学部産婦人科学)
高江正道(聖マリアンナ医科大学産婦人科学)
川原泰(聖マリアンナ医科大学産婦人科学)
- 全国24箇所のがん・生殖医療ネットワーク未整備地域における
 - ① 各行政のがん対策関連部局の行政官
 - ② がん診療連携拠点病院においてがん診療の指導的立場の先生または実務医師
 - ③ 産婦人科診療の指導的立場の医師(可能であれば日本産科婦人科学会医学的適応による未受精卵子など凍結登録施設あるいはART登録施設)または実務担当医師
 - 岩手県保健福祉部医療政策室 稲葉亘
 - 山形県健康福祉部健康づくり推進課 軽部妙子
 - 福島県保健福祉部 地域医療課 阿部浩陽
 - 埼玉県県庁疾病対策課 鈴木久美子
 - 東京都福祉保健局 医療政策部 医療政策課 渡辺昌則
 - 東京都福祉保健局 医療政策部 医療政策課 清野大湖
 - 富山県厚生部健康課がん対策推進班 水上みどり

石川県健康福祉部健康推進課 竹島ゆり
山梨県福祉保健部健康増進課 小林基夫
愛知県健康福祉部保健医療局健康医務部健康対策課 河合美枝
愛知県健康福祉部保健医療局健康医務部健康対策課 太田慎吾
奈良県福祉医療部医療政策局疾病対策課 大井久美子
和歌山県福祉保健部健康局健康推進課 梅山岳人
高知県健康政策部健康対策課 山田眞由美

北海道大学大学院医学研究院産婦人科学教室 工藤正尊
札幌医科大学医学部 産婦人科学講座 馬場剛
青森県立中央病院 血液内科 久保恒明
弘前大学医学部 産科婦人科学教室 福原理恵
山形県立中央病院 産婦人科 中原健次
岩手医科大学 産婦人科学講座 利部正裕
山形大学医学部 産婦人科 松尾幸城
福島県立医科大学 小児腫瘍内科 菊田敦
国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科 鈴木達也
国立がん研究センター中央病院 竹内恵美
東京大学大学院医学系研究科 産婦人科学講座 原田美由紀
山梨県立中央病院 山岸良治
山梨大学医学部 産婦人科 小川達之
富山大学附属病院臨床腫瘍部 林龍二
富山県立中央病院 産婦人科 南里恵
金沢大学 がん進展制御研究所腫瘍内科 矢野聖二
金沢大学医薬保健研究域医学系 産科婦人科学 小野正徳
愛知県がんセンター病院 婦人科 森正彦
名古屋大学医学部 産婦人科 後藤真紀
奈良県立医科大学附属病院 小林浩
奈良県立医科大学産婦人科 今中聖悟
うつのみやレディースクリニック 堀内美穂
高知大学医学部附属病院がん治療センター 小林道也
高知大学医学部 産科婦人科学講座 都築たまみ
筑波大学医学医療系 腎泌尿器外科 西山博之
筑波大学医学医療系 腎泌尿器外科 古城公佑

【議事】

1. 厚労省 清水裕介先生よりご挨拶（厚生労働省健康局 がん・疾病対策課医薬・生活衛生局 総務課 医薬品副作用被害対策室併任がん検診対策専門官）

第三期がん対策推進基本計画において小児 AYA 世代のがんについてネットワークの整備が挙げられており、その一環として小児がん AYA がんの妊孕性温存療法の体制整備というものが大きな課題の一つとなっている。妊孕性温存治療に関し、均てん化が全国に必要であるが、実際に地域の実情を加味すると集約化ということも大きな課題に挙がる。全国で均てん化をしていくと共に、今回は県あるいはエリアでどのように集約して行くかという所を地域の実情に合わせて議論して頂けたらと考えている。

2. 研究代表者および分担者より挨拶

研究代表者：鈴木直

この会では、第三期がん対策推進基本計画の中の AYA 世代がん患者の生殖機能に関する情報の提供と意思決定支援対策に向けた各自治体におけるがん生殖医療ネットワークの立ち上げと今後のロードマップを話し合う。参加予定者は今日 1 月 12 日と次回 2 月 5 日の二回に分け、①24 地域の各行政官の方々、②がん診療連携拠点病院の病院長の先生からご推薦頂いたがん関係の先生方、もうひとつは、受け入れ側・凍結をする側は、日本産科婦人科学会の登録施設においてがん患者さんの未受精卵子や卵子、卵巣を登録施設で凍結するというように日産婦で決まっていることから、③各登録施設の生殖の先生方(日本産科婦人科学会の登録施設のない県は大学病院の教授の先生)をお願いをし、生殖を担当する先生にお越し頂いた。

本日は、秋田県の方々が悪天候のためご欠席、山形県と高知県の先生も急遽ご欠席となったが、北海道、青森県、岩手県、山形県、福島県、東京都、山梨県、富山県、石川県、愛知県、奈良県、和歌山県、高知県、の方々にお越しいただいた。午後の部では地域ごとの問題や課題について話し合いをして頂けたらと考えている。

研究分担者：高井泰

日本がん・生殖医療学会および日本産科婦人科学会と連携しながら、がん生殖医療のインターネットを用いた登録体制の構築、日本全体の妊孕性温存のレジストリーとそのアウトカムを見て行く、という事も皆様のご協力を得て進めて行きたい。

研究分担者：古井辰郎

がん対策推進基本計画で、妊孕性温存という事が盛り込まれたが、適切な意思決定支援を行うために、必要な患者さんに必要な情報提供するためのサポート体制作りが大切であり、過去にネットワークが既に立ち上がっている地域の経験や課題、次にどう活かして行くのかを今日皆様とディスカッションし、各地域に根差したネットワークが立ち上がるきっかけになればと考えている。

3. 本厚労科研班研究の取り組みならびにミッションに関して、研究代表者・鈴木直よりご説明。

配布資料参照。質問なし。

第 1 部：がん・生殖医療ネットワークの現状について

4 つのモデル地域の講師より解説あり。

4. 岐阜県の取り組みについて：古井辰郎先生
配布資料参照。質問なし。
5. 埼玉県の取り組みについて：高井泰先生
配布資料参照。質問なし。
6. 滋賀県の取り組みについて：木村文則先生
配布資料参照。質問なし。
7. 国立がんセンターの取り組みについて（相談支援センター）：加藤雅志先生
配布資料参照。質問なし。

各講師の講演内容についての質疑応答およびコメント

コメント：鈴木直

自治体の行政の方々のサポートが大切であることを改めて感じた。がん患者さんが対象であることから、がん診療連携拠点病院あるいはがん診療協議会の相談窓口が重要と考えられる。がん診療を担う病院、行政、受け入れ側の核となる日本産婦人科学会の登録施設、の三者をどのように結び付けて行くかが課題。

コメント：清水

小児のがん患者さんの妊孕性温存を行う場合、検体を使うのは10年後・20年後になる症例が増えて行くと考えられ、将来の意思決定の方法や、検体の保存をどのように保障して行くか、患者照会をどうするのかなど、将来を見据えた体制を整備して行って頂けたらと考えている。

コメント：鈴木直

受け入れる産婦人科側の出口のお話を頂いたが、小児のがんに対し卵巣凍結や将来の精巣凍結を行うかどうかといった拠点化という事もキーワードになって来ると考えられる。

第2部：小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療ネットワーク構築にむけたワークショップ

8. ワークショップ

各自治体に分かれて討議の後、各県の現状と課題について発表が行われた（詳細は別紙参照）。

9. 総合討論

オブザーバーコメント：西山

実際に各県に帰ってネットワークを立ち上げる段階には各種ハードルがある。まずは、患者への情報発信、医師の教育、相談員の教育。また、一番のハードルは凍結保存を責任を持って行う施設の問題。検体をどこが責任を持って保管するのかなどに関しては、都道府県で出来る事と国レベルでやるべき事がある。ヨーロッパでは検体を長期保存する中核施設は5か国に1か所で良いといった考え方もある。もし日本では長期保存できる施設が1ヶ所あれば良いとしたら、一番大きなハードルである長期の保存のリスクが減り、短期の保存と輸送までを各都道府県で何とかしましうという議論であれば、ハードルは減るのではないか。この班研究からもそういった発信をして行くことで動いていくのではないか。茨城県での実際の経験からそのように考える。

今後についてお知らせと確認事項：鈴木直

- ・ 今回の厚労科研の名前で、各県の情報にリンクできるホームページの立ち上げを予定しており4月以降改めてご相談をさせて頂きたい。また今回1月25日と次回2月5日の厚労科研班会議の内容をまとめ、4月以降に報告書として配布したい。今日ご参加下さった方々を研究協力者としてお名前を入れさせて頂きたいと考えている。名前を入れて欲しくないという方がいらっしゃれば鈴木までご連絡を。
- ・ 各県のワークショップの議論の結果は今日ご参加いただいた方々には後日お送りする方向で検討している。
- ・ 連携協議会の相談支援センターの研修会は、令和2年度から国立がんセンターの加藤先生のご協力を頂き進めて行きたいと考えている。
- ・ 令和2年度には今回の24地域以外の地域の方々も交え、年に一回くらい大きな会を行いたいと考えている。毎回ご参加を頂くのは大変かも知れないが、この班研究は3年間続く予定であり、今後とも皆様のご指導ご支援を賜りたい。